

平成 29 年度 第 1 回地域福祉専門部会会議録

日 時	平成 29 年 8 月 8 日 (火) 18 : 30 ~ 19 : 50
場 所	市役所 4 階 講堂 A ・ B
出席委員	井戸 静志、松坂 めぐみ、棧敷 学、宮村 孝正、西川 美高 芳川 マツコ、徳田 マスエ、新田 英子、河野 好政、田邨 真紀夫
欠席委員	佐々木 千歳、松原 由佳、津野 章
事務局	浜田市健康福祉部地域福祉課 課長 原田 政美、係長 中谷 美代恵、主任主事 岩田直樹
会議内容	<p>1 開会 (地域福祉係長)</p> <p>2 健康福祉部地域福祉課長あいさつ</p> <p>3 専門部会委員、事務局員の紹介 現時点において、委員 13 名のうち、半数以上の 10 名が出席されており、定足数に達している。 今回は、初回の専門部会なので、委員の皆様には自己紹介をしていただく。</p> <p>4 部会長、副部会長選出 部会長に浜田市民生児童委員協議会 弥栄地区の徳田会長、副部会長に浜田市社会福祉協議会の田邨地域福祉係長が選出された。 ※以降、部会長が議長として進行</p> <p>5 議事 ・地域福祉計画の改定について ⇒事務局より、議事資料 No.1 ~ No.4 について説明。 【委員からの質問・意見】 (委員) アンケートは前回と同じ内容か。 (事務局) 基本的には前回と同じ内容だが、新規項目もあるので、次の議事のところで説明をさせていただく。 (部会長) 計画の基本理念の説明で、社会福祉法の改正点は「地域共生社会の実現」ということであったが、計画のいずれかに盛り込まれるのか。 (事務局) 「地域共生社会の実現」については、盛り込んで計画を作成していく予定である。実際のどの範囲まで盛り込むかは、ガイドラインという形</p>

で国から示される予定だが、現段階で示されていないため、未定である。

こちらについては、情報収集を随時行い、計画に反映したいと考える。

(委員) 浜田市独自の色々な取り組み内容があるが、そのような項目は、計画の中身の部分には盛り込まれるとは思いますが、冒頭の計画の体系部分に盛り込んでいくのか。

(事務局) 地域福祉計画は、浜田市という冠が付いているので、他の市とは別のオリジナルな計画を目指すべきであると考えます。浜田市独自の状況については、アンケート調査、庁内・関係団体のヒアリングを実施して、問題点等を洗い出し、計画に盛り込めるものについては盛り込んでいきたいと考える。

(委員) 委託業者については、前回・前々回も同じ業者であり、今までの色々なデータを持っていると思うので、問題点等も取り出してもらえることが十分あるのではないかと。業者は3期目となり、アンケートも3回目となるので、計画も非常に進んだ内容になると考える。

(委員) 社協でも地域福祉活動計画を今年度見直す。行政ではアンケート調査を実施されるが、社協では各圏域でコーディネーターを配置し、協議会を設置している。前回社協では、計画作りのために市民座談会を実施したが、協議会等で情報の集約を行っていききたい。市のアンケートも社協で活用させていただき、市と共有できるような形で計画づくりを進めていききたい。

(部会長) 報告事項については了解いただけるか。

※この件について、了承された。

・住民向けアンケート調査の実施について

⇒事務局より、議事資料No.5について説明。

【委員からの質問・意見】

(委員) P6の問28について、将来あなたが車を運転できなくなった場合とあるが、選択肢7番のバイクも運転できないのだから、選択肢は必要ないのではないかと。そもそも、将来の状況を聞くこの設問が必要なのか。

(委員) 中には、車は危ないけれど、バイクであれば乗ると考える高齢者もおられる。三輪とか、電動の自転車という考え方もある。

(委員) 選択肢7番のバイクは、運転免許があるバイクを指しているのか。

(事務局) 運転免許があるバイクを想定している。原付等も含む。車の運転はしなくなったけれども、原付バイク等で活動される方もいるのではないかと。

(委員) 問 27 に設問があるのだから、将来のことを問 28 でわざわざ質問しなくてもいいのでは。

(事務局) 前回のアンケートと同じく今回も、お住まいの地区についての設問を設定し、どの地区が路線バスを活用しているのか、バスが無いのでタクシーを利用しているのか、車が運転できなくなった将来の状況の把握のためにも、この設問は追加させていただきたい。

(委員) 問 28 については、家族の車は選択肢にあるが、知人、近所の人の車というのが選択肢にあれば、移動手段の質問ではあるが、助け合い・支え合いというのが明確に見えてくるのではないか。

(委員) そのような場合は、選択肢の「その他」で回答するのではないか。前回のアンケートで、「その他」のところに、知人の車とかで回答がなかったか。

(委員) アンケートの中では、「その他」になっているので、報告書では一括りにしているのでは。

(事務局) 配布したアンケート調査報告書に、「その他」に何が記載されていたかは示してあり、前回は「その他」で3件回答があり、中身は「鉄道」と「親戚の車」であった。「その他」での回答ではなく、「知人の車」など別に選択肢を設定することで、実際にそちらを利用している方は、そちらで回答を行うようになるのでは。

(委員) それであれば、選択肢の一つとして「鉄道」も加えるべきである。

(委員) 問 28 で将来あなたが車を運転できなくなった場合とは、具体的にはどのような場合か。免許があっても運転できなくなった場合か、それとも、免許がなくなった場合か。将来あなたが運転できなくなった場合という凄く曖昧な表現となっている。

(委員) あくまでもアンケートであり、現状の中での交通手段を把握するための質問であると思うが、例えば、アンケートの回答の中で、山間部辺りで「近所の人の車」の利用が多いことになると、移動手段を別の角度から用意していかないといけない、といった議論につながっていくと思われる。また、問 27 の医療機関という聞き方を、日常生活ということで問 28 に合わせたほうがいいのではないか。

(事務局) 回答者も混乱すると思われるので、問 27 についても、問 28 の日常生活の交通手段の把握に合わせていただく。今現在の日常生活の交通手段と、将来的な日常生活の交通手段という形で、設問を調整させていただく。

(委員) 問 28 の括弧書きはなくしてもいいのではないか。括弧書きで（運転免許のない方も含む）としていたら、意味が分からなくなる。

(事務局) 言い回しが分かりづらいという指摘があったので、分かりやすい表現に変更させていただく。

(部会長) 問27・28についての意見ばかりだが、他のところで意見はあるか。

(委員) 設問以外のところで、アンケート対象者を無作為抽出すると説明があったが、前回の実施状況をみると、若年・壮年の回収数を確保することを考慮して、年代別の抽出数を調整しているということだが、今回実施の2,500件については、調整を行うのか。

(事務局) 前回は2,000件という限られた件数の中、若年層の有効回答数を多くする目的で、調整を行った。今回は2,500件に件数を増やし、今の浜田市の人口状況、地区・自治区の状況、男女別について、人口割合を算出し、2,500件に人口割合を乗じて無作為抽出を行う。

(委員) 前回は回収率が半分にっていない。回収率を上げる工夫を考えているのか。

(事務局) 前回は若年層からの回収率が少なかったこともあり、全体の回収率が49.1%であった。アンケート調査が無記名ということもあり、どこの地区からの回答があったかの判定はできるが、誰から回答があったかの判断ができないため、回収率を伸ばす方法を考えることは難しい。今回は1,000件以上の有効回答数を求めるという目的で、総数を2,000件から2,500件に変更した。

(委員) アンケート結果について、前回情報公開を行ったか。

(事務局) 中学校用のアンケートについては、調査報告書を各中学校に提供を行った。一般用のアンケートについては、議会、専門部会では調査報告書を配布し説明を行ったが、実際の回答者に対しては、説明は行っていなかった。今回は、調査結果をホームページ等へ掲載、閲覧など、情報の公開をできる環境を整えたいと考えている。

(委員) 先ほど回収率の話があったが、回収率の割合が高いところに、アンケートの送付数を多くしてはいけないのか。

(委員) アンケート対象者の住所と名前が分かっているのだから、浜田市に195名いる民生委員に、いつ、どこにアンケートを送ったかを情報提供するのはいかがでしょうか。情報提供があれば、回答したかどうかを尋ねて行くことも可能である。

(事務局) アンケートの性格上、無記名という形をとっており、民生委員が尋ねていくことになれば、アンケートの提出に萎縮してしまう可能性が

ある。あくまでも無記名ということで、対象者に提出するかどうかを委ねたいと考える。また、高い回収率の年代に案内を多く送ることについて、今回は人口割合に応じて、アンケート配布を予定しており、回収率が高い 50 代以上については、人口割合も高いため、高い割合で回収率が見込めると考えている。

(部会長) 様々な意見があり、いくらか訂正があるかと思うが、アンケートについては事務局の案でよろしいか。

※この件について、了承された。

6 その他

7 閉会